

令和8年度第1回中部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士・小学校教諭等の合同研修会

開催日時：令和8年6月15日（月）

講義題：「子ども主体の保育と保育者の役割
～保育の質の向上を目指す園づくり～」

講師：玉川大学 教授 田澤 里喜 氏

講義内容

- 子ども達の主体性を尊重する保育のあり方
- 保育という営みから考えるリーダーシップ
- 働きやすく働きがいのある職場づくり

講義や協議を通して、それぞれの参加者が「保育・教育の質の向上」にむけて深く考えることができた研修会となりました。



以下、参加者の振り返りをいくつか紹介します。

（幼児教育施設）

- ◆子どもと同じで、大人も主体性を発揮するためには、その環境が安心でき、思いを受け止めてもらえ、肯定的に理解してもらえるものでなければならない。もっと肯定的な捉え方、伝え方ができるように心がけていきたい。
- ◆業務改善をする中で、働きやすさを見直すことも大切だが、保育の質を高め合う「学びのある組織」は保育者のやりがいを高めるということが印象に残った。
- ◆子どもたちにとって、自分の思いや意欲が安心して伝えられる環境が大切であることや、指示命令に従う日常からは「やりたい」は生まれにくいことを学んだ。

（小学校）

- ◆園で子どもたちは、たくさんの経験をし、遊びを通して日々学んでいる。彼らが経験したことを引き出し、信じて任せるということを小学校の教員がもつことが必要。もっと心の余裕をもって1年生に接していきたい。

園全体の保育改善・質の向上を図るためには、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら自園の状況を見直すことが大切です。本研修会での学びが各園・各校の実践に活かされることを期待しています。